

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 51-124677

(43)Date of publication of application : 30.10.1976

(51)Int.Cl.

B01D 53/22
B01D 39/20
B01D 53/16
C01B 1/26

(21)Application number : 50-049701

(71)Applicant : HITACHI LTD

(22)Date of filing : 25.04.1975

(72)Inventor : KITADA MASAHIRO

(54) A HYDROGEN FILTER MEDIUM

(57)Abstract:

PURPOSE: A hydrogen filter medium which can yield hydrogen of high purity by allowing hydrogen to permeate readily through metal at room temperature and can also be produced voluminously.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office



特 許 願 02

昭和48年9月3日

特許庁長官殿

発明の名称

液体の位置エネルギーを回収する装置

発明者

東京都千代田区丸の内一丁目1番1号
株式会社日立製作所習志野工場内
山下 忠 夫

特許出願人

東京都千代田区丸の内一丁目5番1号
株式会社日立製作所
代表取締役 吉 山 博 吉

代理人

東京都千代田区丸の内一丁目5番1号
株式会社日立製作所内
電話東京 270-2111 (大代表)
氏名 (7237) 弁護士 薄 田 利 幸

明 細 書

発明の名称 動力回収ポンプ装置

特許請求の範囲

第1のポンプと、この第1のポンプを駆動する第1の原動機と、少量時のみ動作させる第1の水車を前記第1のポンプと第1の原動機は機械的に連結し、前記第1の原動機と第1の水車は第1の水車から第1の原動機にのみ駆動力伝達を行なうクラッチを介して連結した第1の動力回収ポンプ系を少なくとも1組と、第2のポンプと、この第2のポンプを駆動する第2の原動機と、大量時のみ動作させる第2の水車を機械的に連結した第2の動力回収ポンプ系を少なくとも1組を各々を並列に連結して構成した動力回収ポンプ装置。

発明の詳細な説明

本発明は特に高層建築物において冷暖房の媒体液を下方に設けてある液槽から各部屋に設けてある熱交換器に供給するような場合に用いて好適なポンプ装置に関するものである。

冷暖房に使用する液体は熱交換が終わったのち液

① 日本国特許庁 公開特許公報

①特開昭 50-49701

④公開日 昭50.(1975) 5 2

②特願昭 48-98270

②出願日 昭48.(1973) 9. 3

審査請求 未請求 (全3頁)

庁内整理番号

6552 34

⑤日本分類

63(A)

⑥Int. Cl²

F04B 49/00

槽に戻し再度使用するのが普通である。ところで高層ビル等で冷暖房に使用した液体は位置エネルギーを持っている。そこで、従来はこのエネルギーを有効利用するために動力回収装置というものが考えられていた。これはポンプと、このポンプを駆動する原動機と、水車とを機械的に連結し、液体の位置エネルギーによつて水車を回転させ、この水車の回転エネルギーを原動機に返して負荷を軽減するものである。そして、設備が大きくなると前記した動力回収装置を複数組並列に取り付けて行なっている。これは単に前記した動力回収装置を複数組並列に連結したものであり、その動力回収率は並列に連結したことによつて向上せず回収動力は一台の動力回収装置で得られる値の、単に、台数倍の値である。しかるに、一般に動力回収装置を複数組並列に連結して設置する高層ビルの空調設備等においては水車へ位置エネルギーを与える液体の有効落差は各々ほぼ一定である。水車の特性として分割された少量で複数の水車を運転するより合計水量、あるいは、何台分かの水量で一

括して一台の水車を運転した方が発電動力が大きい傾向がある。

本発明はこれらの点に鑑み成されたものであつて、その主な目的とするところは水車の特性を有効に利用することによつて動力回収率の大きな動力回収ポンプ装置を提供することにある。

以下本発明を図に示す一実施例について説明する。Aは第1の動力回収ポンプ系であり、第1のポンプP₁と、第1のポンプP₁を駆動する原動機としての第1の電動機M₁と、そして第1の水車T₁より構成してある。第1のポンプP₁と第1の電動機M₁は機械的に連結し、第1の電動機M₁と第1の水車T₁はクラッチC₁を介して機械的に連結してある。このクラッチC₁は第1の水車T₁から第1の電動機M₁へは駆動力伝達は行なうが、第1の電動機M₁から第1の水車T₁へは駆動力伝達は行なわないものであり、例えば一方にしか動力を伝達しないワンウェイ・クラッチあるいは手動クラッチ、あるいは、落液量によつて入、切制御できるクラッチとする。Bは第2の

熱交換器3, 3', 3'' - - - 及び管路4, 5にはほとんど媒体液が満たされていない。この状態で起動するには弁V₁を開き、弁V₁を閉じた状態で第1の電動機M₁を駆動する。すると第1のポンプP₁は熱交換器3, 3', 3'' - - - 及び管路4, 5内に液槽1内の媒体をゆつくり満たしていく。この場合、水車T₁への落液量が少なくてもクラッチC₁の作用により、水車T₁は電動機M₁と連動状態にならないので、負荷になるということはない。落液量が水車T₁を有効に動かす範囲になるとクラッチC₁の作用により水車T₁と電動機M₁とは連動状態になり水車T₁の発生動力は第1の電動機M₁に返され、その分だけ電動機M₁の負荷は軽減されることになる。需要水量が比較的少なく落液量が少ない場合は運転はこのまゝの状態で行なわれる。そして、需要水量が増加すると弁V₁を開にし、弁V₂を閉じて第2の電動機M₂を起動する。すると水車T₂は第1, 第2のポンプP₁, P₂の合計した流量で有効に運転され、このとき媒体液のもつエネルギーは水車T₂に

特開 昭50- 49701 (2)
動力回収ポンプ系であり、第2のポンプP₂と、この第2のポンプP₂を駆動する原動機としての第2の電動機M₂と、そして第2の水車T₂より構成してあり、これらは機械的に連結してある。第1のポンプP₁と第2のポンプP₂は並列に連結され各々の吐出口は集流器2で連結される。第1, 第2のポンプP₁, P₂で液槽内の液を揚水し、管路4を介して熱交換器3, 3', 3'' - - - に給水する。熱交換の終つた液体は管路5を通して分流器6に集められるようにする。分流器6は熱交換の終つた液体を第1の水車T₁, 第2の水車T₂に分流する。V₁, V₂は弁であり、弁V₁は比較的需要水量が多いときには閉じる。弁V₂はこの逆に需要水量の少ないときには閉じ、需要水量の多いときには開く。これらの弁V₁, V₂は最も単純には管路5に流量計を設け、この流量計を見ながら手動に依り行なうことができる。また、流量計の指示により自動的に行なうことも可能である。

以上のように構成したものに於いて起動時には

より回収される。この場合、ポンプは2台並列運転であるが、2台のポンプにより揚水された媒体液は1台の水車のみを回すため、分流された少水量で運転されず、ポンプの揚水した合計の水量で運転されるため水車の発生動力はその特性から大きくなり、動力回収率も水車を2台運転する場合よりも向上する。

需要水量が減少したときや停止時には、弁V₁を開き、弁V₂を閉じてまず第2のポンプを停止し、水車T₂で動力回収運転する。次に、弁V₂を開いて第1のポンプP₁を停止する。

図に示す実施例においては第1の動力回収ポンプ系1組と第2の動力回収ポンプ系1組の場合について説明したが、本発明はこれに限ることはなく第1の動力回収ポンプ系1組と第2の動力回収ポンプ系複数組、あるいは、第1の動力回収ポンプ系複数組と第2の動力回収ポンプ系複数組であってもよい。

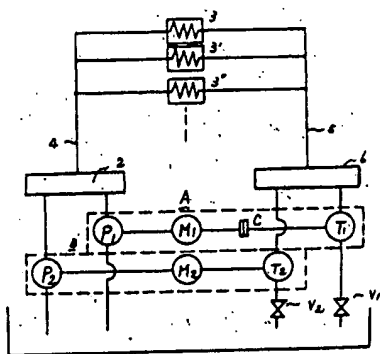
以上の説明より明らかなように本発明は第1の動力回収ポンプ系を少なくとも1組と、第2の動

力回収ポンプ系を少なくとも1組を各々並列に連結して構成し、第1の動力回収ポンプ系の水車は少流量時のみ運転し、第2の動力回収ポンプ系の水車は大流量時のみ運転することになるため、小流量時はクラッチ的作用により水車を効率よく運転できる条件に於いてのみ連動運転し、大流量時には1台の水車を複数台のポンプで揚水した水量で運転することになり、発生動力が大きく動力回収率が向上し、装置全体のランニングコストが低減できる。更に、第2の動力回収ポンプ系の電動機は動力回収中の消費電力に見合った小出力容量のものでよいため安価、小型、軽量化が計れる。

図面の簡単な説明

図は本考案の一実施例を示すポンプの系統図である。

- A ----- 第1の動力回収ポンプ系
- B ----- 第2の動力回収ポンプ系
- P₁ ----- 第1のポンプ
- P₂ ----- 第2のポンプ
- M₁ ----- 第1の原動機



- M₂ ----- 第2の原動機
- T₁ ----- 第1の水車
- T₂ ----- 第2の水車

代理人 弁理士 藤 田 利 幸

添附書類の目録

- (1) 明 細 書 1通
- (2) 図 面 1通
- (3) 発 行 状 1通
- (4) 特 許 願 本 1通

前記以外の発明者、特許出願人または代理人

発 明 者 ノリヒコ・ササノ
 住 所 新潟市東区志野7丁目1番1号
 株式会社日立製作所志野工場内
 代 理 人 三 田 肇 弘
 住 所 同上 新潟 県 新潟 市